

## 活動報告——平成二十五年度

◇平成二十五年度四月二十七日(土)に第三十二回大会を開催した。大会終了後総会を開き、平成二十四年度の会務、会計報告を行った。

◇同日付で会誌『お茶の水女子大学中国文学会報』第三十二号を発行した。

### ——平成二十五年度例会記録——

第一回例会(大会) 四月二十七日

・入澤達吉博士と『雲莊詩存』——近代日本知識人と漢詩—— 佐藤 保

第二回例会 七月六日

・張愛玲研究の現在——渡米後を中心に—— 鈴木 基子  
・也斯の香港——『後植民食物與愛情』を読む—— 西野由希子

第三回例会 九月七日

・「詠懐」と「言志」——なぜ阮籍詩群が「詠懐」と呼ばれたのか 鄭 月超  
・『日本閨媛吟藻』の研究 大戸 温子  
・1950年代の凌叔華 阿部 沙織  
第四回例会 十二月七日  
・在句子末尾出現的副詞“都/还” 田禾  
・表可能的情态動詞“会” 指向将来的用法考察 鄭文琪  
・横浜国立大学における中国語履修者の学習方略観と習得観——学生が考える「中国語ができるようになるには」——「中国語ができる」とは 新沼雅代

卒業論文・修士論文題目

平成二十五年三月卒業（五名）

牛丸 絵梨佳 現代台湾人の台湾語に対する意識調査とその

一考察

筧 ゆかり 『説文解字』にみられる『詩経』の引用につ

いて — 疊語の引用を中心に —

軽部 美咲 日本語と中国語のオノマトペの比較

藤川 奈緒 六朝代志怪小説と誌人小説についての一考察

— 『搜神記』・『世説新語』を中心に —

水野 優紀 「はかる」という意味を持つ漢字の分類と派

生 — 『説文解字』を中心に —

平成二十五年三月修了（一名）

趙 亜男 唐代の茶詩における茶会と茶宴の比較研究